

## 2、学校の経営

### (1) 本校の教育方針及び教育目標

#### 【基本方針】

本校の教育は、創立以来、憲法及び教育基本法をはじめとする、教育関係諸法令に基づき、人格の完成をめざし、真理と正義を希求する人間の育成を期して行われてきた。

本校区は、60年代初期以降に開発された典型的な近郊住宅地で、集合住宅をはじめ社宅と一戸建て住宅が計画的に作られ、随所に公園が配置され、子どもたちの遊び場も比較的恵まれた望ましい住環境にある。

本校教育の推進にあたっては、生涯を通じて自らの成長を図り、社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をめざすことを基本方針とする。そのために、基礎・基本を重視し、自ら学ぶ意欲をもち、主体的に考え、判断し、行動する力を育てる教育を推進する。また、人を思いやる心や人の痛みを自分のこととして受けとめることのできる豊かな人権感覚を育て、個性を生かす教育の充実に努めるとともに、将来、国際社会に貢献できる人物の素地育成にあたる。

#### 【教育目標】

### よく学び 思いやりある たくましい子

「よく学び」 確かな学力の定着と主体的・意欲的に学習しようとする態度の育成を図る。

「思いやりある」 校名・五常(仁・義・礼・智・信)の精神を生かし、豊かな人間性を培う。

「たくましい子」 心身の健全な発達を図り、最後までやりぬく気概を養う。

知・徳・体のバランス良い成長が求められるが、その中でも、心の教育に最も重きを置きたい。**学力の向上をめざすのは当然のこととして、日々の子どもの心を育てる学級経営を礎に学習活動に取り組むことが教育目標達成の礎となる。**

#### 【めざす教師像】

- ①子に寄り添う教育(目線は子どもに合わせる)
- ②子を教師が導く教育(心は常に子どもよりも上にあること)
- ③子どもの心を見抜く力、心の変化に気づく力を身に付けること。

### (2) 本年度の重点目標と重点課題

【スローガン】 毎日楽しい学校

【めざす学校像】 児童を感動させ、児童の期待に応える学校

【学校の使命】 児童が安心して楽しく通える安全な学校づくり

児童の確かな学力の育成、学力の向上

#### 【重点目標】

自ら学び、自他を尊重し、仲間と高めあえる子の育成

## 自分で考え、表現し、周りとの関係を築ける子の育成

本校では、素直で真面目に、一生懸命に日々の学習活動に取り組み、自らの力を存分に伸ばしている児童が多い。一方、他者を尊重することなく誹謗中傷を行ったり、遊び半分で他者をからかったりする事案が少なからず発生している。また、未知の場面、困難な場面に出会ったときに、自ら考え行動することを避け、消極的になったり、殻に閉じこもることも多々見られる。本校の最大の課題は、児童の「心の強さを育てること弱さ」と言える。

そこで、学校対応策として、まず皆が認め合える学級経営の構築をめざす。さらに、日々の授業学習活動において、教科学力(≒認知能力)を含む児童の総合的な生きる力(≒非認知能力)を高めていく。また、学校での学習と家庭での学習を通して、主体的・自律的に学ぶ力を習得させる。自分の考えを大前で堂々と話す取り組みを繰り返すことで、表現力と自尊心を高める。児童が自信をもって生き、自己と他者を尊重することの大切さを学び、仲間とともに大きく成長していくことを支援する。教えていきたい。

本校は、以上のような本校児童の現状、保護者・地域のニーズ、そして枚方市教育大綱の理念を十分に踏まえた学校経営を行う。

~~「自分で考え」……自分で善悪を判断し、正しい考えを持つことができる子を育てる。~~

~~「表現し」……自分の考えたことを、きちんと相手に伝える強さを育てる。~~

~~「周りとの関係を築く」……最終目標として、社会で人と適切な関係を築ける子どもを育成する。~~

「自ら学び」……主体的・自律的に学ぶ力をつける

「自他を尊重し」……自分の考えをきちんと他者に伝えるとともに、他者の考えを尊重する力をつける

「仲間と高めあえる」……仲間とともに、教科学力(≒認知能力)を含む児童の総合的な生きる力(≒非認知能力)をつける

枚方市の教育理念(教育大綱より)

### 「夢と志を持ち、可能性に挑戦する枚方のこどもの育成」

#### ～子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす枚方の教育～

(大綱の抜粋)

誰ひとり取り残さず、枚方市立学校園で学ぶすべての子どもたちが社会の大海原で自立して生きて行くことができるよう、集団生活や職業の体験、地域社会との関わりなど、社会で生きていくための準備の場として様々な体験の場を提供し、生きる力を育み、未来への可能性をできる限り多く持たせたまま社会に送り出してあげることを枚方市の学校教育の使命とし、“枚方のこども”を育成します。

重点1 確かな学力の育成

重点2 いじめ不登校の解決

重点3 学びを支える学校園づくり

重点4 生涯学習との連携

教育大綱より教育目標

### 学びあい、つながりあい、一人ひとりの未来をひらく

～自立、協働、創造に向けた主体的な学びを支え、可能性を最大限に伸ばす～

## 【重点課題】

- (1) 基礎・基本の徹底(音読・百ます計算・漢字前倒し学習=朝学習(オビタイム)を実施する。)(主要重点課題)
  - ・反復練習によって全児童の基礎・基本力を高め、主に学力低位層に対する個別指導を強化する。
- (2) 主体的・対話的な深い学びの実現
  - ・国語の校内研究の蓄積を生かし、『学習指導要領の求める資質・能力』を育成する。
- (3) 外国語教育の強化(モジュール学習時間の設置・・・)
  - ・中学とのギャップを最小にし、4技能を高めるための学力向上策を実施する。
  - ・…………
- (4) 体力の向上
  - ・正しい計測の意義を踏まえ、指導と練習を行った上で、全国体力テストを行う。
  - ・体力向上のために、体育の時間に基礎トレーニングの時間を設ける。  
(例:運動場2周以上 腕立て 腹筋など運動量を多くする)
- (5) Q-U、学校生活アンケート等を活用した学級経営
  - ・Q-Uは2~6年生で年2回実施。学校生活アンケートは年4回実施。いじめ調査アンケート年6回。
  - ・それぞれの結果(客観的評価)を分析し、主観と合わせ学級経営に生かしていくことが重要。
- (6) ユニバーサルデザインの教室環境・授業
  - ・人権・ユニバーサルデザイン・効率化の観点での業務の標準化(ガイドラインの設置)  
人権教育部の主導で、研修→ガイドライン改定→行動標準化→改善 を一体化させた改善サイクルを回す。  
適宜保護者にもはたらきかけを行い、共通認識化をはかる。

以下ガイドラインの掲載・人権部よりもらう(箇条書き) 下記は本欄末尾に参考資料で掲載

(資料) 広島県立教育センター所長高田英弘「ユニバーサルデザインの授業づくり」より

### どの子にもわかりやすい授業づくり

- (1) 「見通し」がわかる授業構成
  - 授業冒頭での「めあて」の提示
  - 授業の最後の「振り返り」の設定 など
- (2) 「聞きやすい」学習環境の設定
  - 簡潔で具体的な指示・説明
  - 個別の言葉がけ及び復唱 など
- (3) 「見やすい」学習環境の設定
  - 構造化された板書
  - 活動ごとの机上の整理 など
- (4) 学習ルールの設定と徹底
  - 人の話を聞くための姿勢
  - ノートの使用の仕方 など
- (5) 個別の目標設定及び肯定的な評価
  - 活動のスマールステップ化
  - 肯定的な評価の積極的な実施 など
- (6) ペアによる話し合い活動等の学習形態の工夫
  - 話し合い・教え合い等における学習集団の活用 (話し合い等の活性化をねらった席配置)
  - 机間指導場面の確保 など
- (7) 場面の状況及び相手の気持ち等の理解を促す工夫
  - 絵・図及び文字などの見えるものによる説明
  - 相手の気持ちも含めた事実の説明 など

### (3) 学校組織

#### ①教職員の参画意識の向上

- ・企画運営委員会、職員会議、校務分掌等の各組織を効率的に機能させ、全職員が高い参画意識を持って学校運営を推進することを旨指めざす。

#### ②企画運営委員会

- ・構成は、校長・教頭・教務主任(首席)・学年主任、主事(必要に応じて各部の責任者等)とし、**教務主任は、議題の事前整理と議事の進行を行う。**
- ・学校運営に関する事項の企画・立案・検討を行い、最終的に校長が決定する。その責任は校長が負う。
- ・職員会議の5日以上前に行い、職員会議までに企画委員会での内容を全職員に伝えておくものとする。
- ・職員会議は、校長が招集する全教職員による会である。学校運営組織の一つであり、校長の職務遂行上の補助機関である。
- ・会議を効率的に進めるため、担当者は1週間前までに議題を教務主任に提出し、教務主任は事前整理を行い、会議の開始・終了予定時間を告知する。担当者は会議前日までに議案資料を企画・職会フォルダーに提出し、出席者は議案資料を事前に読んでおく。それによって会議での担当者の説明は、最小限にする。

#### ③職員会議

- ・職員会議は、校長が招集する全教職員による会である。学校運営組織の一つであり、校長の職務遂行上の補助機関である。
- ・主な目的は、企画運営委員会の決定事項を伝達することである。
- ・会議を効率的に進めるため、教務主任(首席)は会議に先立って議題を **十一月前(に?)1週間前までに**教職員に知らせる。教務主任は会議の開始・終了予定時間を告知する。出席者は議案資料を事前に読んでおくとともに、学年会で内容を把握する。それによって会議での担当者の説明は基本ないものとし、説明が必要な場合も最小限にする。

#### ④校務分掌

- ・学校教育目標を具現化するための、学校運営を効果的・能率的に進めていくための組織である。
- ・主担者がリーダーシップをとって主体的に各分掌を機能させ、学校全体の教育活動の質的向上を図る。
- ・各校務分掌で企画書を作成し企画委員会に提出することにより、円滑かつ有効な学校運営を行う。

#### ⑤学年(会)

- ・小学校における学校経営・学級維持の基礎母体となる。学年主任を中心に常に情報共有を図り、安定した学年経営を目指す。
- ・教員の年齢構成が低くなってきたことから、学習進度や指導法等も毎週全担任で確認し、学年の学習指導力を高める。
- ・生徒指導事案が発生した場合には、学年主任を中心に対応する。なお、その際、生徒指導主担者や教頭との連携も密に行い、必要に応じて指示を仰ぐ。
- ・最も身近な同僚という性格を持つことから、各担任とのコミュニケーションを大切に、教職員の心身の状態にも心配りを図る組織であること。